

# 保護司として

福田 光代 氏

保護司は、犯罪や非行をした人たちの立ち直りを支え、地域の犯罪予防活動をしているボランティアです。保護観察中の人と月に数回面接をし、生活状況を見守ったり相談にのったりします。時には家族との関係の調整をしたりすることもあります。また、刑務所や少年院に入っている人の家族等(引受人)に会い、出所後の生活の見通しについての話なども聞いたりします。担当をするのは窃盗・薬物事犯などが多いのですが、1対1で面接をしてみるとそれぞれ素直なところがあり、特に親子関係がうまくいっている家庭の少年は、ほとんど再犯をすることはありません。罪を償い、再出発しようとする人たちに一番大切なことは、地域で支えることがとても大切なことです。出所後の生活のために協力雇用主になり仕事に就くようご協力をいただき、居場所ができることで地域とつながり再犯を防ぐ、そして立ち直りを支える……。これが「社会を明るくする運動」につながっていきます。これからもこの運動を続けていけるよう地域の皆さまの温かい見守りのご協力をお願い致します。



今年は新型コロナウイルス感染症の影響で講演会等の開催ができませんが毎年、7月は「社会を明るくする運動」の強化月間として全国で啓発活動を行っております。



—新任保護司の挨拶—  
岩本 章 氏

保護司の仕事や活動内容を聞くと、私には荷が重く携わるのは難しいと思いましたが、何回か話を聞くことで、私にも携われると思い今日に至っています。実際に携わってみると奥が深く多くの事柄を学びながら務めています。これからも微力ですが、信頼される保護司になれるよう努力し、頑張っていきますので、よろしくお願ひいたします。

第70回「社会を明るくする運動」  
～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～  
に向けて

「社会を明るくする運動」は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、安全で安心な地域社会を築くための全国的な運動です。昭和26年に始まり、毎年多数の御参加を得ながら広がり、本年、記念すべき第70回を迎えました。

安全で安心な国づくりのためには、犯罪や非行から立ち直ろうとする人たちが再び地域の輪に迎え入れ、責任ある社会の一員となるよう支えることで、誰もがやり直し、活躍できる社会を構築することが重要です。保護司を始め地域の皆様を中心となり、国、地方公共団体、民間が「Hand in hand」、共に手を携え、更生保護のネットワークを広げるべく取り組んでいます。

東京オリンピック・パラリンピックを契機とし、世界から集う多くの方々、我が国において、温かな励ましの笑顔にあふれた「明るい社会」、誰もが「RE:スタート」できる社会を体感していただくことは、世界平和にも通ずるものと確信しております。

「社会を明るくする運動」の社会的意義を御理解いただき、犯罪のない幸福な社会づくりに取り組む決意のしるしである「幸福の黄色い羽根」のもと、様々な分野から、多くの方々がお参加いただけますよう御協力を願ひします。

内閣総理大臣 **安倍晋三**



編集委員<広報活動部>  
部長：金井 治 部員：橋本 辰四郎、中島 信之、中村 美奈子、瀬下 弘和、小原 真由美

# 潮見橋地区福祉だより

—みんな大好き！ しおみばし—

発行 潮見橋地区社会福祉協議会

潮見橋地区社会福祉協議会  
本町通三丁目自治会  
会長 長谷川 亮 氏



3つの密(密閉・密集・密接)を避ける  
人と人との距離の確保  
マスクの着用  
手洗い



「コロナ禍に思うこと」

新型コロナウイルスが蔓延して私たちの生活は一変し我慢の生活を強いられています。誰もが初めて体験する前代未聞の出来事に、完全な防御策がない状況下で、どのように対処すれば良いのか不安の毎が続いています。

地区社協や連合、自治会などの地域活動も大きく制約されてしまいました。人との触れ合い・親睦・助け合いが活動の原点なのに、地区社協としてそれが出来ないのがとてもはがゆいです。

コロナ禍が、私に教えてくれたことがあります。それは、これまでの平凡な日常生活がどんなに素晴らしいことであったのか、ということです。普通の生活をするのは当然のこと、それが当たり前だと信じて疑わず、その恩恵、有難

さに、私は胡坐をかいていました。慢心した自分を戒めて、もっと謙虚にならなければ、感謝の気持ちを持って日々を過ごさなければいけないと実感しました。

世代を問わず、それぞれの立場で、何の悩み・不安もなく昼間は一生懸命に働いて夜はぐっすり眠れることの素晴らしさ、その日が1日も早く訪れることを願って止みません。



潮見橋地区社会福祉協議会は、皆様からお預かりした賛助会費還元金を地域の福祉活動に活用しています。

今年度も社協賛助会へのご協力をよろしくお願い致します。

昨年度  
還元金 ¥495,550 円



潮田地域ケアプラザ  
所長 笹原 一美 氏



4月1日に着任しました。お祭りの多い、とても賑やかな地域だと聞いてきましたが、なかなか皆様にお会いできず寂しいです。人と会う機会が減ると、免疫力が低下するといわれていますが、気疲れと暑さもあり体調を崩した方の相談が増えています。ケアプラザでは長期戦になることを覚悟して、安全に人と関わるための対策を検討しています。地域の皆様と一緒に乗り越えていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願ひいたします。





鶴見区福祉保健課事業企画担当係長 櫻井 佑樹 氏

—横浜市及び鶴見区の新型コロナウイルス対策について—

同ウイルス感染拡大の不安の中、地区社協をはじめ、地域のご活動継続に尽力されるみなさまに感謝申し上げます。人との接触を避けることもある今こそ、「お隣に変わった様子はないか」など、ご近所の“お互いさま”の気持ちを大切にしたいものです。

また、保健所から4つの予防策をお知らせします。

- ① マスクをする(熱中症も危険。人と距離が取れるときは外す)
- ② 2m以上(最低1m)、人と距離を取る(飛沫を受けない・浴びない)
- ③ 長時間、同じ空間にいない(ウイルスを吸い込む量を減らす)
- ④ 人といるときは換気をする(飛沫を蒸発させ失活させる)

マスク着用にご協力ください



感染症予防



市及び区は、医療機関等と連携し同ウイルス感染拡大抑止にあたっています。引き続きご理解・ご協力をお願い致します。



潮田神社「鎮座百年」



獅子頭は神社における狛犬と同様、神様を守護し邪気を祓い浄めるもので、全国各地で色々な風習が見られます。神幸祭において神輿巡幸の順路及び地域を祓い浄めるという大事な役割もそのひとつで、神酒所の祭壇に獅子頭を飾る習いもあります。祭事の踊り、そして獅子舞など一般的なもので深く日本人には馴染み深いものです。

今回新調の獅子頭は神奈川県下最大の大きさになるとのことですが、

写真をご覧の通り彫師は潮田地域の気風に合わせて豪快な顔付きにしたそうです。



～ 今年度、各町会の現状とこれからの活動について ～



潮見橋地区連合会 本町通二丁目会  
会長 谷山 清治 氏



昨年度は皆様のご協力により例大祭・パレード・ラジオ体操など無事に終わりましたが、10月の体育祭は台風19号とその影響で小学校が避難所となりやむなく中止。長く続いた歴史ある行事でしたので誠に残念でした。小学校が避難所となりお手伝いをしましたが、初めての経験でした。

その後、したのやまつり・連合研修会、年が明け1月末の連合賀詞交歓会まで順調にいきましたが、皆様もご承知のように未知の感染症が発生、3月の連合防災訓練も中止。新年度になり理事会も縮小し各町会長、当番町会の会計・総務で行っていました。例大祭をはじめすべての行事が中止となっていますが、皆様くれぐれもお体に気をつけてお過ごしください。

潮田一丁目町会  
会長 川端 佳成 氏



今年の各方面からいただく文書の中に「コロナ」や「中止」の文字をいくつ見てきたことか。それでも細々と町内活動を続け、掲示物や配布物等で情報提供を行ってきました。

話は変わりますが、毎年「ケアプラザ」さんから職員紹介を兼ねてのPRカードが届きます。その中に『◎となりさんは◎いじょうぶ?』という文言があります。お互い声かけあって生活しましょうということです。

今日のような難局の時こそお互いの見守りが大切になってくるのではないかと思います。

下野谷一、二丁目自治会  
会長 金井 治 氏



新型コロナウイルスの感染をはじめは甘く見ていた感があったが、政府が拡大を危惧して、緊急事態宣言をした後には、地域行事の中止や行政の行事も次々と見送られ、脱力感を覚える始末でした。

その中で自治会として、2月初めから『霧見の郷』を災害時一時避難所として、区の担当者と打ち合わせを行い、6月25日区長立会いのもと、覚書を締結できたことが明るい出来事でした。

新型コロナウイルス感染拡大の中、厳しい状況に置かれても、会員・役員と共に向上心・希望を持ち、前向きに歩んでいきたいと思っております。

本町通一丁目自治会  
会長 島田 伸由 氏

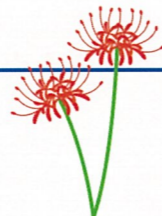


今年に入り新型コロナウイルス感染が広がり、自治会でも感染者を出してはいけなないので、会館の中での会議を自粛し、少人数で役員会を開催し毎月の連合理事会の報告や町内行事の開催・中止判断を議論し、その結果を常会日に各組長さんに紙ベースにし広報紙・回覧板をまとめ、3密にならないように会館前で配布しております。

民生委員の方には、感染させない・しないを十分に注意し従来のように、高齢者一人住まいの見守りをしているところです。

今後の運営は情勢を見て判断しようと思っています。

日商岩井鶴見マンション自治会  
会長 松永 忠男 氏



新型コロナウイルス感染症拡大で緊急事態宣言が発令されて(現在は解除)自治会では3密(密閉・密集・密接)を避けるためその活動を自粛しています。(役員会は随時開催)

新型コロナウイルス感染が確認されて半年が過ぎても尚、先が見えない状況です。これからの活動は皆が模索中ではないでしょうか。

我が町会でも住民の方々の健康を第一に考え、自粛生活を続けながら一日も早い収束を願っています。

下野谷町三丁目自治会  
会長 永井 和男 氏



もともと小規模の自治会で、地区連合会・地区社協の事業に乗せてもらい乍ら、地域住民の絆をつくっています。

代表する問題点は、役員のみならず手不足であります。

210世帯という極小自治会で、単身者共同住宅が多いこと、70歳過ぎまで仕事を頑張っている方が多いなどが影響しております。

問題解決を進めるため、区役所等の指導を頂き、なり手の掘起しを計画したいと思います。

